

絲櫻春蝶奇縁

前編

三

特  
へん13  
1579  
03





明 13  
第 1577  
3

絲柳春蝶奇縁卷之三

東都 曲亭馬琴 編述

第三段の下

くく十兵衛の曙明とて宿所は縁ひ入と雖も母屋へはあつて京先人  
七回の仏堂を修め更には暮表と建高野(猶大和崎)のけいせを修め  
途る故ありて迂滞せしとて主の十作物よりさへいふ僕元来一個の妹あり  
總角の時別れてよりその姓方と名づゆひに彼は伊勢へ去る人の妻ありて女子入  
と産するも夫は飽むる女を携へ舊里へ歸りて悪棍に欺れて遠江を遠去の  
六方ゆるる竟に墓を奪ひとれりその日僕通りありて幸く妹を救ひて  
ゆりゆり縁由を告げしは十作物に驚歎し其苦に及み小を夫と告れし  
とて失ひたるは妹の心の中を推量しといと痛く思ふ和主の宿所は養人

絲柳春蝶奇縁卷之三



俊とよなるべしけしう直ただ母屋ははやへとせよと可か憚たげは俊とよなるべし十と兵衛べゑ然しかびて妹いもうとの癖くせを  
 若わか曙あけぼの明あきらといふとあうかして舊ふる名なの且かつ岡おかと唱なへる夜よ母屋ははやへ遣つかせし十と他たち世よを  
 名なふ年とし苑ゑんへ二十にじゅう五ごとむすこ顔かほを傳つたへたる年とし未ま瘦しやうる世よ帯おびをれは奉ほう勅てつも真まことやと  
 十と他たの心こころの且かつ岡おか八はち兄あに八はち小こ死しす許ゆるす若わか曙あけぼの明あきらあるよとあふき艶あや妓ぎの面おもて影かげよら  
 とあふき惑まどひてあふびく小こ口くち説せつゆぞ且かつ岡おか八はち原はら是こゝ路ぢ上じやうの柳やなぎ貞さだ実まことと事ことする婦よめ女めの  
 あふ世よの男おとこ子この多おほかるふ一いっ八はちの才さい多おほかる主人しゆじんと情なさけ由よしあふる小こ見み小こ対たいしても  
 面おもてぶせとあふか明白めいぱくも推おし辞じかてて竟つひ小こ脱だつる辞じ多おほかるその身みをすむる十と他た  
 あふ愛あい然しかびて次つぎの年としの春はる十と兵衛べゑ小こ夜よをさすまじつらあふ且かつ岡おかをさすて正ただ妻さい  
 の披ひら露ろり吉きち席せきとひきて里さと人ひとの酒さけ飲のみるあふすまじ十と兵衛べゑの為ためと偽いつはり  
 痛いたくもどもさふもさふ縁ゆかり故ゆゑとらあはじての禁かぎとてさふ假かり托たく辞じこれとも聽きこれ  
 せんまは現げんや世よの多おほ病びやうる人ひと婢めかけ媚めかけ妻さいを迎むかへるとらち命いのちを縮ちぢむる大おほ毒どく刺さ  
 是こゝの事ことの由よしはしとて十と他たへ年としを病びやうとむすひて且かつ岡おかと妻さいを  
 せし春はるの三さん年ねんといふ秋あきの比ひ遠とほ小こ夜よとあふはかり家いへを嗣ついでとむす任まか細こ五ご郎らうは  
 年としを十と五ごふるういふれど相あひま撲づを好このむ巻まき法はふ怒いか剣けんとむすして商あひ賈がの子こ  
 小こ他たとあふあふと十と兵衛べゑへさうづ藏くらあるのまればさうく細こ五ご郎らう又また教けう  
 訓おしなへてあふ母はは屋やの主ぬし人ひとと傳つたへる身みの後のち見みして商あひ物ぶつの且かつ岡おか十と他たが  
 在ありてあふるあふの月つき開ひらく世よの後のちあふるあふさふ且かつ岡おかの若わか小こ着きて淫みだらさ  
 けいせと細こ五ご郎らうが為ための叔おじ又また婦めかけの糸いと屋やの後のち家いへと故ゆゑを辱はぢらる内うちを  
 主ぬしと輪りん回かい應おう載ざいの係けいる所ところあふあふさうらあふら且かつ岡おか八はち原はら是こゝ路ぢ上じやうの津つを  
 ちて思おも提て木き又また秀ひで引ひとてしへ修しゆ務むの乘のり名なの津つあり女むすめ見み止とどみ子こを奪うばひ去さ  
 らん身みも又また難がた義ぎなるびへ遠とほ江えの天てん龍りゆうの木きふさうて崇たかむる一いっ八はち  
 寛かん魂たま貞さだ緑りよくの武ぶ系けい豊ほう徳とくの引ひく且かつ十と他たが妻さいとらとてさうら後のち家いへを

是こゝの事ことの由よしはしとて十と他たへ年としを病びやうとむすひて且かつ岡おかと妻さいを  
 せし春はるの三さん年ねんといふ秋あきの比ひ遠とほ小こ夜よとあふはかり家いへを嗣ついでとむす任まか細こ五ご郎らうは  
 年としを十と五ごふるういふれど相あひま撲づを好このむ巻まき法はふ怒いか剣けんとむすして商あひ賈がの子こ  
 小こ他たとあふあふと十と兵衛べゑへさうづ藏くらあるのまればさうく細こ五ご郎らう又また教けう  
 訓おしなへてあふ母はは屋やの主ぬし人ひとと傳つたへる身みの後のち見みして商あひ物ぶつの且かつ岡おか十と他たが  
 在ありてあふるあふの月つき開ひらく世よの後のちあふるあふさふ且かつ岡おかの若わか小こ着きて淫みだらさ  
 けいせと細こ五ご郎らうが為ための叔おじ又また婦めかけの糸いと屋やの後のち家いへと故ゆゑを辱はぢらる内うちを  
 主ぬしと輪りん回かい應おう載ざいの係けいる所ところあふあふさうらあふら且かつ岡おか八はち原はら是こゝ路ぢ上じやうの津つを  
 ちて思おも提て木き又また秀ひで引ひとてしへ修しゆ務むの乘のり名なの津つあり女むすめ見み止とどみ子こを奪うばひ去さ  
 らん身みも又また難がた義ぎなるびへ遠とほ江えの天てん龍りゆうの木きふさうて崇たかむる一いっ八はち  
 寛かん魂たま貞さだ緑りよくの武ぶ系けい豊ほう徳とくの引ひく且かつ十と他たが妻さいとらとてさうら後のち家いへを



とてして中へさへては位牌へ華をひ向香を焼せ。まの執著乃  
所為あふべし。

第四段

安濃津小神原命を傳ふ  
遠江灘に父子沈淪を

光陰前の如く又校のごとく。白駒隙と通る。二角須臾も止むは扱由五十四塚  
東六郎へ次女止み子を属て曙明と離別せし。十年あまの月日を待てし。  
逝りの日不疎とほろろとあはれど。それある人のとちなり。飽も倦も  
甘妻と一朝の疑念あふりて。遠く離別をなす。その密夫を何人なりとも  
あはれ月ごころ年すまはなり。はれど。つら風声ゆきえと。原来曙明は海に  
あはれとあはれと。あまの月ごころ疑ひて。遠く出せし。と惜けし。疑心暗鬼を生  
まると。つらとあまの月ごころ。と今交ふ百遍悔千遍悔も。存るはよそ。往方と来ん

とも又る。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。  
艶妹とのとちなり。はれど。まも正首あて。父の教も傳ふと。あまの月ごころ。推し  
習て。その書拙く。はれど。徳刺の正信のまも。綿と摘機を織て。はれど。あはれあはれあはれ。  
目ふ衣食の料不給。幼弱くて別と。母のまも。妹のまも。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。  
胸の積袋をひけく頼む。紀念の印籠と。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。  
親同胞と慕ふと。人あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。  
慰む。竊に女婿と擇む。お婿のまも。此彼のまも。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。  
稱あはれあはれあはれ。時天文十七年秋八月。秋八月。秋八月。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。  
ええぬ朝風も。いと冷あはれあはれ。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。  
七人をねて。東六郎が宿所は。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。  
誰と意て。腰刀と取て。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。あはれあはれあはれ。



神原矣所平るりし。すべし。さういふ。さういふ。下し。びる。新り。下し。びる。飲ひ。  
 強て座席へ誘ひて送る。寒。暖を速別。後の恙るれを祝し。東六の事。  
 曩小某悞て罪を主君よるる。俯仰の間。二十二年。小及。さる。小。  
 う。と。和殿と我。正しく。ち。る。類族。る。ども。胡越の如く。ち。る。さる。り。さ。  
 今。所。示。の。本。あり。て。め。り。防。る。と。事。んと。向。は。矣。所。平。莞。介。と。笑。此。度。某。  
 作。る。と。私。の。業。の。ん。則。新。君。憲。政。朝。臣。の。恩。命。あり。主。後。和。順。の。吉。事。之。  
 和。殿。よ。お。ひ。て。祝。着。る。る。と。真。実。ふ。も。そ。と。生。る。成。て。東。六。を。恭。  
 ぞ。く。矣。平。と。上。坐。お。推。さ。め。と。い。ひ。び。る。れ。東。使。未。臨。所。從。の。越。系。ん。  
 と。い。は。矣。不。平。貌。と。更。め。昔。年。武。義。河。我。の。後。既。小。難。系。ふ。る。び。り。と。た。  
 和。殿。一。文。字。の。陣。羽。織。を。ま。け。賜。り。君。の。お。ん。命。に。代。り。ま。ん。と。そ。と。款。と。  
 防。射。ひ。比。類。る。れ。功。績。あり。と。い。ふ。も。先。君。憲。廣。朝。臣。御。思。ひ。悞。せ。る。ふ。

ことあるふ。よ。り。て。本。日。約。東。の。恩。賞。を。黙。止。す。ひ。し。る。と。和。殿。憤。を。速。て。自。答。ふ。  
 籙。金。を。退。散。し。四。五。年。が。間。往。方。知。且。先。君。を。や。く。悞。を。悔。く。る。に。  
 と。い。ふ。も。君。と。て。臣。は。勸。解。の。道。あり。し。と。い。ふ。と。津。小。居。住。の。よ。う。と。食。食。  
 乃。づ。れ。る。が。ら。恩。免。の。ゆ。故。る。り。れ。と。さ。る。ふ。去。年。の。春。先。君。領。は。不。例。下。り。て。  
 い。と。危。く。見。え。る。を。さ。ひ。る。お。養。君。憲。政。朝。臣。御。思。ひ。悞。せ。る。ふ。と。扱。方。お。扱。た。  
 の。い。五。十。四。塚。東。六。郎。の。功。め。れ。る。賞。る。り。し。の。と。い。ふ。と。と。籍。は。悔。加。補。  
 彼。が。憤。を。速。て。返。さ。り。し。る。一。文。字。の。陣。羽。織。の。建。長。禪。寺。の。什。物。あり。に。後。世。  
 徳。縁。の。為。り。と。強。て。懇。請。し。羽。織。を。代。て。数。度。の。軍。陣。お。著。用。特。小。和。系。の。  
 物。を。い。ば。さ。り。と。世。の。人。も。ま。れ。り。彼。の。浪。人。の。旦。暮。ふ。よ。と。さ。る。く。活。却。は。た。と。申。  
 わ。い。當。家。の。瑕。瑾。あり。や。ある。彼。東。六。と。今。見。小。修。勢。州。安。濃。ふ。あり。武。義。の。  
 師。範。と。世。と。さ。り。と。傳。つ。れ。び。ひ。び。ひ。さ。り。予。が。羽。織。を。失。ふ。と。い。ふ。べ。う。だ。

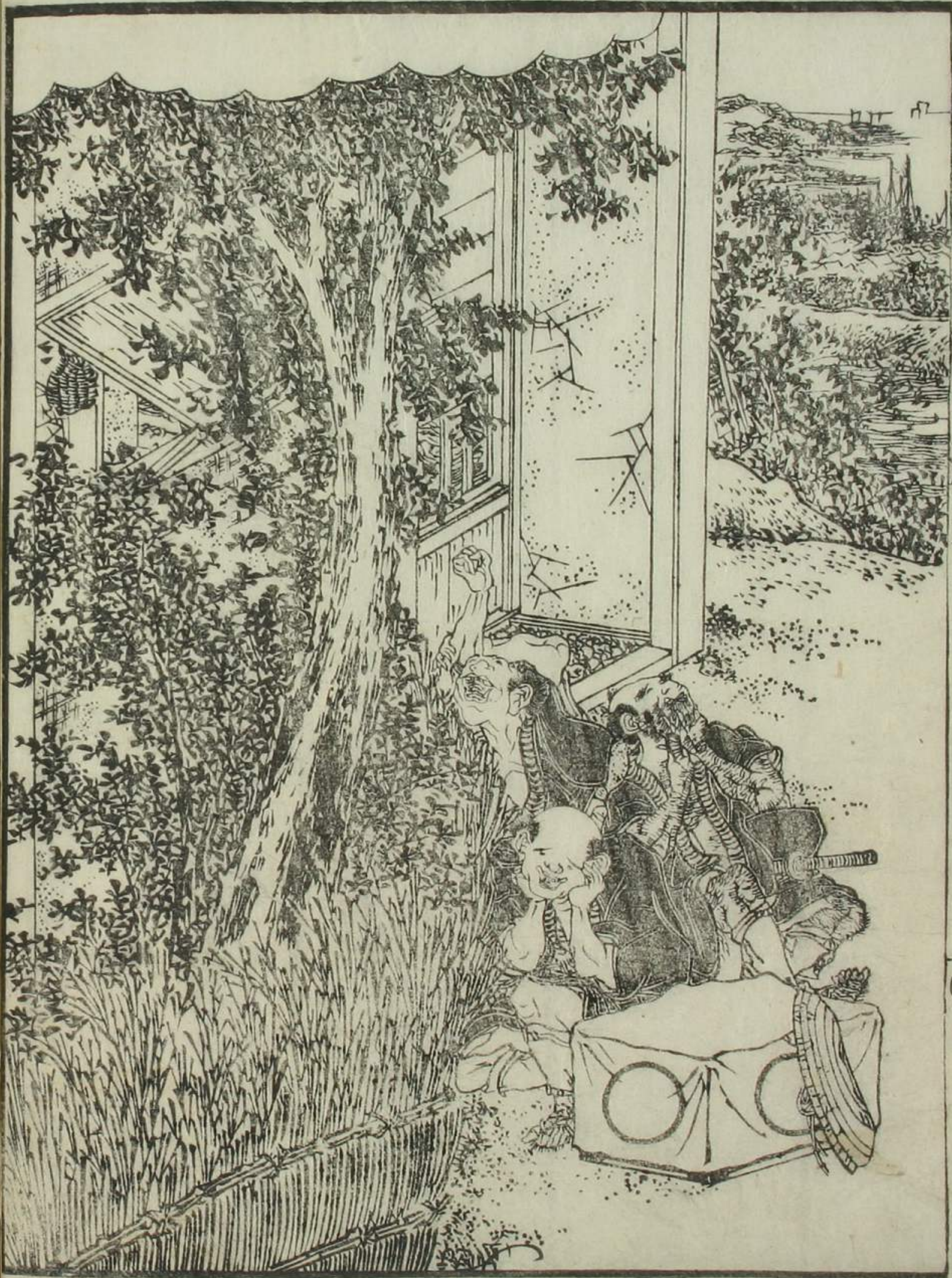




胡蝶の  
 小靴  
 聘と  
 神原  
 増縁と  
 錢ど

小草

幸田屋東六



糸掛春遊詩集卷三

糸掛春遊詩集卷三



けりて後東六を速く召しよす。彼彼のの志を移して件の羽織を返さば  
 とも舊の主従たるをたの羽織も赤ぢのづく。空庫あり不降。この旨を  
 ころるよと叮嚀し仰せられ。終は釋されぬひも死せぬ。あゝ憲政朝臣先  
 君の送命のまじ。只速く和殿を拜しむんとて親教の言と思食ふまじ  
 豫て某よお使を仰せむと。いとも近年亦復皇相ある氏保也。と我を  
 挑まも。貌姑峯足柄の路絶てこの地へ赴くところなむ。いづれをせむ  
 今益中や。隙をぬて同道よりまのほり。君命を傳ふと矣。本車が月小  
 ちりての實のこまなれば面固まり。則路費や。沙金二百兩。段子五巻。箱  
 七巻を賜ふの。月るる起りせよ。して謙余へ及ま。いとも。律。洋。い  
 速く。東六の感涙を禁せ給て。や。や。お頭を擡。君。た。ま。ま。い。ま。も。  
 臣のて臣た。ま。ま。い。ま。も。や。先。君。某。よ。背。き。ま。い。ま。も。い。ま。も。君。の。非。を。禮。

憤と逆。謙余を立退らる。討めの在士をも向れ。と終焉。及せぬ。い。ま。  
 送言して。い。ま。も。の。君。恩。の。高。れ。と。い。ま。も。朝。熱。山。も。致。る。成。お。ん。仁。忍。乃。  
 汝。と。ら。の。侮。勢。の。海。も。比。が。し。劍。を。解。て。徐。の。君。の。墓。よ。掛。る。吳。の。季。れ。が。  
 信。へ。禮。て。夢。の。夜。主。君。秘。系。の。陣。羽。織。を。還。進。ま。ざ。り。と。い。り。り。の。討。の。  
 恨。と。い。ひ。ま。も。ま。ま。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。  
 異。姓。の。主。君。よ。仕。ま。も。且。く。因。窮。と。い。ま。も。彼。一。文。字。の。秘。系。せ。り。  
 和。殿。謙。余。の。め。の。も。つ。ま。づ。これ。ら。の。越。を。序。ら。り。て。や。の。某。も。い。つ。れ。て。  
 系。と。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。  
 疊。載。て。神。原。が。海。や。う。ふ。ま。ま。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。  
 汝。不。自。極。と。禮。せ。せ。れ。彼。一。文。字。の。秘。系。は。君。公。渴。中。の。い。ま。も。い。ま。も。  
 拵。系。せん。と。ま。も。仔。細。あ。ら。う。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。い。ま。も。



ののそ一文字を進ませうとの命命のけりもつとどよりてふふも  
 鎌倉の系系の日こも承めて見来の引出物小進じもつ所感の八もあふ  
 増させもひて首尾さどてしりかえん且くこをむらも人としりば東六  
 ちんく故び獲て羽織と賜物をり納きて更は孟を初つ女見小草お  
 酌を執て神崎を答とぞぞ交研平た下めて小草をえてすのさ人の  
 愛女あや備稀る標致之母也あひ在るや名何と略まのふ今茲  
 我業すものもいと回して小草の和らびお幸の二八はるるはる名只小草と  
 略は侍り母のとをより夜もて念地黙てる女見のころを推量て東六の笑ひお  
 紛ら神原氏肉せえ長は延てゆども田舎育のあつてしりてしりて  
 童は異るるば某幸小子どもあつて幸しれどもみま女の子あれば物の  
 役もならがどし女房のあつて彼六才あつたりる秋次女を属て離別

ちんく故び獲て羽織と賜物をり納きて更は孟を初つ女見小草お  
 酌を執て神崎を答とぞぞ交研平た下めて小草をえてすのさ人の  
 愛女あや備稀る標致之母也あひ在るや名何と略まのふ今茲  
 我業すものもいと回して小草の和らびお幸の二八はるるはる名只小草と  
 略は侍り母のとをより夜もて念地黙てる女見のころを推量て東六の笑ひお  
 紛ら神原氏肉せえ長は延てゆども田舎育のあつてしりてしりて  
 童は異るるば某幸小子どもあつて幸しれどもみま女の子あれば物の  
 役もならがどし女房のあつて彼六才あつたりる秋次女を属て離別



のさうりつゝをわ。と問ハ東六覚介と笑と女人い元来三男小家を夫の  
 家どりて家とまされ。とさく女婿と招とのをも。彼が家とさひひじし  
 室小五十四塚神原ハ同宗の親あり。其此宿由りる。糸の恩命を  
 蒙ると。さきは和名。の執達より。のるれば。いそぐ一女と惜て。恥が  
 まると。成まると。狭五郎小五郎嫌且ど。速小諾と。婚縁と結ぶべ。終  
 変改まると。と言。放て。意。矢野平斜。び。腰刀  
 著。刀子と。又懐より。田金十枚を。さう。か。船と。さ  
 用。これと。裁。お。つ。ひ。から。卒介小相澤。子  
 婚縁即座。のひ。父子の。面目。う。な。狭五郎。と。告。ま。か  
 彼も。と。執。め。善。速。せ。の。世。あ。れ。ど。後。を。  
 齋。の。ゆ。い。の。刀子。の。兼。之。の。名。派。依。前。の家。正。が。ひ。あり。親

あてのさく三覚。一。年。恩。賞。と。君。の。賜。て。某。小。興。小。柄。ハ。則  
 赤洞。納。子。小。金。の。胡。蝶。三。羽。あり。又。この。金子。ハ。路。費。の。餘。今。婚。縁。乃  
 神。と。せん。受。納。め。の。と。親。於。主。人。の。同。り。小。園。ハ。東。六。左。を。く  
 こと。を。取。り。恩。賜。相。傳。の。小。朝。を。め。聘。物。と。せ。ら。ま。さ。り。を。  
 ろ。この。金。を。受。べ。君。子。ハ。断。金。の。交。を。ま。と。こと。を。受。け。某。を。侮。り  
 ろ。秋。こ。の。ゆ。と。推。辞。ハ。神。原。う。ら。と。点。改。の。る。と。事。か。ら。  
 教。て。取。ら。を。降。る。ふ。あ。ら。この。金。由。又。主。君。の。賜。る。子。孫。の。と。を。あ。り。  
 子。の。為。は。婦。を。擇。も。君。恩。ハ。報。せん。為。の。と。縁。を。つ。ら。好。を。結。ぶ。金。銭  
 かり。と。賤。む。と。杖。て。納。め。と。町。寧。進。め。東。六。辞。め。又。言。を  
 ろ。この。二。品。を。受。納。め。更。ふ。益。を。改。神。原。を。阿。翁。と。唱。小。草。抜。五。郎。為。小  
 寺。頭。の。世。矢。野。平。の。数。益。を。傾。小。草。小。對。ひ。て。某。ハ。先。も。と。謙。介。ハ







甚<sup>よ</sup>しと整<sup>ととの</sup>ぶと篋<sup>かぶつ</sup>にして彼<sup>か</sup>れ<sup>こ</sup>る<sup>る</sup>浪<sup>なみの</sup>人<sup>ひと</sup>の精<sup>せい</sup>刀<sup>とう</sup>とぶら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>も<sup>も</sup>ら<sup>ら</sup>ふ<sup>ふ</sup>い  
 る<sup>る</sup>。世<sup>よ</sup>なら<sup>ら</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>の<sup>の</sup>事<sup>こと</sup>。故<sup>こ</sup>明<sup>めい</sup>輩<sup>はい</sup>小<sup>せう</sup>梅<sup>ばい</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>人<sup>ひと</sup>君<sup>きみ</sup>の賜<sup>たまひ</sup>の<sup>の</sup>器<sup>き</sup>あり<sup>り</sup>。これ<sup>こ</sup>れ<sup>こ</sup>れ<sup>れ</sup>  
 又<sup>また</sup>神<sup>かみ</sup>原<sup>はら</sup>が聘<sup>へい</sup>物<sup>ぶつ</sup>を<sup>を</sup>加<sup>か</sup>え<sup>え</sup>る<sup>る</sup>。物<sup>ぶつ</sup>十<sup>じゅう</sup>分<sup>ぶん</sup>小<sup>せう</sup>整<sup>せい</sup>の<sup>の</sup>下<sup>した</sup>。彼<sup>か</sup>上<sup>じやう</sup>達<sup>たつ</sup>奇<sup>き</sup>の<sup>の</sup>嫁<sup>よめ</sup>入<sup>い</sup>り<sup>り</sup>ま<sup>ま</sup>種<sup>むね</sup>の<sup>の</sup>  
 親<sup>おや</sup>式<sup>しき</sup>あり<sup>り</sup>。夜<sup>よ</sup>裳<sup>じやう</sup>小<sup>せう</sup>鞋<sup>げ</sup>の<sup>の</sup>ふ<sup>ふ</sup>り<sup>り</sup>ひ<sup>ひ</sup>菱<sup>ひしやう</sup>小<sup>せう</sup>白<sup>しろ</sup>糸<sup>いと</sup>袖<sup>そで</sup>を<sup>を</sup>う<sup>う</sup>ち<sup>ち</sup>あ<sup>あ</sup>け<sup>け</sup>て<sup>て</sup>下<sup>した</sup>へ<sup>へ</sup>練<sup>ね</sup>中<sup>ちゆう</sup>の<sup>の</sup>只<sup>ただ</sup>  
 その<sup>その</sup>人<sup>ひと</sup>の<sup>の</sup>好<sup>この</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>夏<sup>なつ</sup>の<sup>の</sup>生<sup>せい</sup>絹<sup>きぬ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>た<sup>た</sup>て<sup>て</sup>狗<sup>いぬ</sup>の<sup>の</sup>獲<sup>と</sup>袋<sup>ふく</sup>の<sup>の</sup>生<sup>せい</sup>平<sup>へい</sup>も<sup>も</sup>掛<sup>か</sup>く<sup>く</sup>。又<sup>また</sup>  
 お<sup>お</sup>夜<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>や<sup>や</sup>う<sup>やう</sup>大<sup>おほ</sup>約<sup>やく</sup>八<sup>はち</sup>入<sup>い</sup>の<sup>の</sup>織<sup>オリ</sup>物<sup>ぶつ</sup>を<sup>を</sup>五<sup>ご</sup>一<sup>いち</sup>巾<sup>いん</sup>の<sup>の</sup>牙<sup>が</sup>糸<sup>いと</sup>裁<sup>さい</sup>べ<sup>べ</sup>。残<sup>のこ</sup>る<sup>る</sup>三<sup>さん</sup>尋<sup>じゆん</sup>を<sup>を</sup>二<sup>に</sup>  
 ひ<sup>ひ</sup>尋<sup>じゆん</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>て<sup>て</sup>袖<sup>そで</sup>小<sup>せう</sup>裁<sup>さい</sup>又<sup>また</sup>一<sup>いち</sup>尋<sup>じゆん</sup>を<sup>を</sup>裁<sup>さい</sup>え<sup>え</sup>て<sup>て</sup>大<sup>おほ</sup>領<sup>りやう</sup>と<sup>と</sup>肩<sup>かた</sup>又<sup>また</sup>細<sup>こほ</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>を<sup>を</sup>う<sup>う</sup>ち<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>  
 よ<sup>よ</sup>う<sup>やう</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>。廣<sup>ひろ</sup>五<sup>ご</sup>寸<sup>すん</sup>長<sup>なが</sup>二<sup>に</sup>尺<sup>せき</sup>袖<sup>そで</sup>の<sup>の</sup>下<sup>した</sup>小<sup>せう</sup>緒<sup>じゆ</sup>を<sup>を</sup>附<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>。左<sup>ひだり</sup>の<sup>の</sup>袖<sup>そで</sup>に<sup>に</sup>左<sup>ひだり</sup>斜<sup>しや</sup>衣<sup>い</sup>の<sup>の</sup>  
 袖<sup>そで</sup>に<sup>に</sup>左<sup>ひだり</sup>斜<sup>しや</sup>衣<sup>い</sup>あり<sup>り</sup>。又<sup>また</sup>大<sup>おほ</sup>領<sup>りやう</sup>も<sup>も</sup>細<sup>こほ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>。左<sup>ひだり</sup>を<sup>を</sup>う<sup>う</sup>ち<sup>ち</sup>を<sup>を</sup>う<sup>う</sup>ち<sup>ち</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>。腋<sup>わき</sup>も<sup>も</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>  
 附<sup>つ</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>。ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>新<sup>しん</sup>婦<sup>ふ</sup>君<sup>きみ</sup>の<sup>の</sup>市<sup>いち</sup>物<sup>ぶつ</sup>も<sup>も</sup>二<sup>に</sup>番<sup>ばん</sup>小<sup>せう</sup>貝<sup>かい</sup>桶<sup>づく</sup>之<sup>の</sup>貝<sup>かい</sup>の<sup>の</sup>数<sup>かず</sup>に<sup>に</sup>三<sup>さん</sup>百<sup>ひゃく</sup>六<sup>じゅう</sup>十<sup>じゅう</sup>。又<sup>また</sup>次<sup>つぎ</sup>の<sup>の</sup>  
 色<sup>いろ</sup>の<sup>の</sup>舟<sup>ふね</sup>の<sup>の</sup>長<sup>なが</sup>持<sup>ぢ</sup>を<sup>を</sup>お<sup>お</sup>は<sup>は</sup>じ<sup>じ</sup>。二<sup>に</sup>番<sup>ばん</sup>小<sup>せう</sup>脚<sup>きゃく</sup>尉<sup>ゑい</sup>子<sup>こ</sup>黒<sup>くろ</sup>糊<sup>こ</sup>あり<sup>り</sup>。三<sup>さん</sup>番<sup>ばん</sup>小<sup>せう</sup>腰<sup>こし</sup>荷<sup>か</sup>唐<sup>たう</sup>櫃<sup>び</sup>の<sup>の</sup>

番<sup>ばん</sup>小<sup>せう</sup>長<sup>なが</sup>櫃<sup>び</sup>五<sup>ご</sup>番<sup>ばん</sup>小<sup>せう</sup>長<sup>なが</sup>持<sup>ぢ</sup>六<sup>ろく</sup>番<sup>ばん</sup>小<sup>せう</sup>屏<sup>びん</sup>風<sup>ふう</sup>の<sup>の</sup>宮<sup>みや</sup>七<sup>しち</sup>番<sup>ばん</sup>の<sup>の</sup>巾<sup>いん</sup>番<sup>ばん</sup>あり<sup>り</sup>。この<sup>この</sup>外<sup>ほか</sup>に<sup>に</sup>  
 小<sup>せう</sup>匣<sup>げい</sup>小<sup>せう</sup>盒<sup>こく</sup>被<sup>ひ</sup>褥<sup>じよく</sup>の<sup>の</sup>箱<sup>はこ</sup>は<sup>は</sup>沈<sup>ちん</sup>の<sup>の</sup>盒<sup>こく</sup>髻<sup>げい</sup>結<sup>むす</sup>の<sup>の</sup>箱<sup>はこ</sup>火<sup>か</sup>取<sup>と</sup>の<sup>の</sup>香<sup>かう</sup>爐<sup>ろ</sup>硯<sup>いん</sup>文<sup>ぶん</sup>臺<sup>たい</sup>帶<sup>たい</sup>乃<sup>なり</sup>  
 箱<sup>はこ</sup>半<sup>はん</sup>押<sup>おし</sup>の<sup>の</sup>引<sup>ひ</sup>捲<sup>まき</sup>あり<sup>り</sup>。齒<sup>は</sup>黒<sup>くろ</sup>の<sup>の</sup>壺<sup>つぼ</sup>小<sup>せう</sup>香<sup>かう</sup>脂<sup>じ</sup>壺<sup>つぼ</sup>白<sup>しろ</sup>粉<sup>こな</sup>の<sup>の</sup>盒<sup>こく</sup>櫛<sup>し</sup>の<sup>の</sup>箱<sup>はこ</sup>を<sup>を</sup>や<sup>や</sup>う<sup>やう</sup>  
 と<sup>と</sup>う<sup>う</sup>と<sup>と</sup>唐<sup>たう</sup>物<sup>ぶつ</sup>あり<sup>り</sup>。服<sup>ふく</sup>息<sup>いき</sup>を<sup>を</sup>す<sup>す</sup>法<sup>ぽう</sup>あり<sup>り</sup>。小<sup>せう</sup>匣<sup>げい</sup>の<sup>の</sup>緒<sup>じゆ</sup>を<sup>を</sup>組<sup>くみ</sup>て<sup>て</sup>著<sup>つ</sup>。又<sup>また</sup>葛<sup>か</sup>笠<sup>かさ</sup>の<sup>の</sup>  
 緒<sup>じゆ</sup>に<sup>に</sup>紫<sup>むらさ</sup>き<sup>き</sup>あり<sup>り</sup>。茨<sup>いば</sup>梨<sup>り</sup>箱<sup>はこ</sup>と<sup>と</sup>六<sup>ろく</sup>耳<sup>みみ</sup>盥<sup>くわん</sup>常<sup>じやう</sup>の<sup>の</sup>盥<sup>くわん</sup>も<sup>も</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>席<sup>せき</sup>に<sup>に</sup>則<sup>すなは</sup>ち<sup>ち</sup>二<sup>に</sup>枚<sup>まい</sup>あり<sup>り</sup>。  
 縁<sup>えり</sup>の<sup>の</sup>大<sup>おほ</sup>く<sup>く</sup>織<sup>オリ</sup>物<sup>ぶつ</sup>あり<sup>り</sup>。席<sup>せき</sup>を<sup>を</sup>布<sup>ぬい</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>。これ<sup>これ</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>先<sup>ま</sup>へ<sup>へ</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>。と<sup>と</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>。輿<sup>こし</sup>乃<sup>なり</sup>  
 金<sup>かね</sup>物<sup>ぶつ</sup>定<sup>ぢやう</sup>め<sup>め</sup>あり<sup>り</sup>。十二<sup>じふに</sup>所<sup>しよ</sup>小<sup>せう</sup>九<sup>く</sup>所<sup>しよ</sup>。又<sup>また</sup>七<sup>しち</sup>所<sup>しよ</sup>五<sup>ご</sup>所<sup>しよ</sup>繫<sup>けい</sup>金<sup>かね</sup>物<sup>ぶつ</sup>の<sup>の</sup>十二<sup>じふに</sup>所<sup>しよ</sup>の<sup>の</sup>間<sup>ま</sup>小<sup>せう</sup>花<sup>はな</sup>  
 も<sup>も</sup>の<sup>の</sup>飾<sup>かざり</sup>あり<sup>り</sup>。輿<sup>こし</sup>の<sup>の</sup>綱<sup>つな</sup>も<sup>も</sup>口<sup>くち</sup>傳<sup>でん</sup>あり<sup>り</sup>。左<sup>ひだり</sup>の<sup>の</sup>轆<sup>りゆう</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>う<sup>う</sup>け<sup>け</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>。右<sup>みぎ</sup>の<sup>の</sup>轆<sup>りゆう</sup>も<sup>も</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>  
 その<sup>その</sup>夜<sup>よ</sup>の<sup>の</sup>礼<sup>らい</sup>法<sup>ぽう</sup>式<sup>しき</sup>三<sup>さん</sup>献<sup>けん</sup>習<sup>じゆ</sup>ひ<sup>ひ</sup>る<sup>る</sup>。え<sup>え</sup>ん<sup>ん</sup>が<sup>が</sup>過<sup>あや</sup>失<sup>まち</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>。母<sup>はは</sup>の<sup>の</sup>帷<sup>ゐ</sup>を<sup>を</sup>う<sup>う</sup>ち<sup>ち</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>。序<sup>じ</sup>所<sup>しよ</sup>  
 小<sup>せう</sup>給<sup>ぢゆう</sup>奉<sup>ほう</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>。の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>。と<sup>と</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>。人<sup>ひと</sup>の<sup>の</sup>脚<sup>きゃく</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>。も<sup>も</sup>ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>。これ<sup>これ</sup>も<sup>も</sup>此<sup>こゝ</sup>に<sup>に</sup>  
 坐<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>し<sup>し</sup>が<sup>が</sup>大<sup>おほ</sup>く<sup>く</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>。と<sup>と</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>。人<sup>ひと</sup>の<sup>の</sup>脚<sup>きゃく</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>。も<sup>も</sup>ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>。これ<sup>これ</sup>も<sup>も</sup>此<sup>こゝ</sup>に<sup>に</sup>



車はもはやとく准依はまざる。夫婦二人の大倫を婚姻最大礼なり。  
 衣裳雜具もこの地より齎して彼地へまざる。それらどの晴のまらべし。  
 速よりの人として武具馬具もどしどし。小章が衣裳も道具もまざる。  
 財を擲て求めしむる。ひの外は日ごろ行く。九月の中流あるら。いつまでも  
 かくてあまざる。や鎌倉へまるとして。猛は従者殺催して。遣を衛。唐櫃を  
 擔。一郷の老弱劍法の才子も別と。若既不起りせんとて。又あまざる。  
 合戦の際。又往還も自在なる。山あり関を居川あり橋を以。その間あり  
 草賊亦が横行と。と傳はる。小殿の物を齎して。空を度し。鎌倉へ到りて  
 けん水引をく。く。く。新獲の。と。念る。頃。九月十六日。津乃宿  
 所を住捨て。小草を携。後者を。神戸の浦より。便。十五六。李の  
 駄荷も。舟も積の。て。あま。送る。里人と。才子も。袂を分ら。

帆を揚。揚。揚。大。洋。ふ。ふ。ふ。この日。天。晴。は。浪。高。なる。も。  
 結句。風。の。け。ま。舟。ま。ま。海。上。僅。八。九。里。中。三。河。の。五。十。良。子。崎。に。駈。り。つ。  
 結。旦。未。明。より。追。風。よ。り。と。水。主。指。取。小。罵。教。動。と。旭。の。浪。を。ま。る。比。  
 真。帆。揚。て。ま。ま。三。時。を。う。り。は。て。ま。あ。か。東。海。の。大。難。所。遠。江。難。を  
 過。程。小。忽。地。中。風。吹。て。船。の。膠。膠。り。て。付。ま。ま。親。衛。が。脅。力。あり。と。動。一  
 か。く。金。に。し。る。舟。人。亦。ま。ま。と。果。果。て。左。せ。ま。右。せ。ま。と。罵。る。お。海。水。機。頭。り  
 渦。巻。て。尾。周。の。潮。を。穿。り。か。如。く。鯨。鯨。の。水。を。喝。く。と。さ。の。の。海。船。樞。と  
 う。ら。縛。り。て。目。今。千。尋。の。水。底。へ。卷。容。ら。る。う。ら。金。に。し。る。後。客。果。ハ。願。願。え  
 魂。を。失。つ。終。て。生。る。を。持。由。せ。ん。水。主。指。取。の。命。を。惜。む。隨。分。と。働。も。松。ハ  
 ひ。ち。妙。は。縛。り。て。腹。を。む。も。あ。ま。ん。船。頭。声。を。あ。つ。立。て。衆。合。れ。後。人。達  
 を。驚。め。く。後。の。船。頭。類。の。憑。り。と。や。この。中。海。神。の。お。め。ま。の。の。の。



夫人の命をめて。数十人共換がじ。おのく行李を投入して。誓の言を  
 試もくもくといふ。して。船は。歸命頂礼水神河伯。今。船中の旅客を  
 投う。物を沈めて。求めぬ。その人を速く去りし。速く示し。其。船を  
 抽く。数回念を。逆巻。潮。忽。北。小静。舟。おたり。し。つ。船。も。船。も。船。も。  
 さ。ぐ。この。際。行李。も。と。流。せ。と。く。衆。皆。お。ひ。ひ。く。小。神。仏。を。祈。念。し。つ。  
 運。と。只。その。一。奉。定。め。て。或。は。坐。或。は。簀。或。は。衣。裳。行。袂。ひ。つ。く。く。名。告。  
 かけて。水中。へ。投。入。し。つ。多。く。の。漂。浪。の。ち。り。く。潮。お。引。き。て。流。れ。お。く。そ。が。中。に  
 東。六。と。小。草。が。望。の。秋。の。月。の。田。毎。の。ち。お。宿。ま。る。と。く。且。く。浪。お。揺。ら。ん。く。  
 流。り。と。ん。ふ。ふ。と。あ。わ。く。千。尋。の。底。お。沈。く。人。食。吐。嗟。と。敬。馬。嘆。原。素。  
 海。神。の。求。め。ぬ。犠。牲。の。彼。人。あり。この。女子。お。疑。ひ。ほ。し。く。舟。舳。ま。ち。  
 糸。で。流。れ。ぬ。と。い。は。せ。ぬ。あ。と。東。六。郎。眼。を。睜。し。く。置。き。し。奴。愚。人。た。り。

船長お惑んで。不覚。つ。と。を。解。ん。と。と。や。渦。巻。水。お。投。と。死。の。難。を。お。  
 沈。下。既。お。今。この。船。の。傾。れ。待。つ。て。眼。前。沈。ん。と。あ。る。奴。を。と。や。汝。亦。か。  
 流。せ。し。お。知。ら。し。ま。あ。お。沈。ま。ぬ。親。子。の。お。如。く。お。く。て。渦。巻。く。水。お。  
 流。ま。る。浪。を。滑。り。て。沈。ぬ。も。つ。ら。い。所。を。疑。ぬ。汝。亦。か。び。行李。を。釋。く。  
 ひ。と。く。お。投。入。し。つ。且。も。又。ま。る。ま。じ。汝。亦。か。流。れ。ぬ。の。ひ。と。く。と。お。沈。ぬ。  
 と。あり。お。投。入。ぬ。の。つ。ら。い。と。も。流。れ。ぬ。の。あ。る。と。た。い。難。く。誓。の。當。否。を。決。ん。  
 かく。て。も。つ。と。を。解。ん。と。と。や。汝。亦。を。刺。して。その。ち。ら。お。死。ん。い。つ。お。  
 ぞ。や。と。敷。圍。て。刀。の。鞘。も。砕。る。た。り。お。握。持。する。威。勢。猛。く。て。事。お。べ。も。  
 あ。ら。ん。が。お。人。亦。お。見。え。な。く。錯。ぬ。ぬ。の。説。論。亦。復。物。を。流。し。  
 程。々。後。客。亦。か。敷。を。場。と。投。入。し。つ。行李。衣。裳。へ。復。更。も。當。ら。ぬ。潮。の。  
 ち。り。く。流。れ。ぬ。と。東。六。郎。こ。も。死。ん。と。と。さ。ぐ。つ。且。も。の。行李。を。釋。て。流。れ。ぬ。

新編源氏物語 卷之三







見らば。あひくひく。荷座を信と見えし。一女の嫁入衣裳磨あけり。  
 塗筆管八平代の後も長櫃といはる。櫃不祝。浦島の子の玉乃。鑑  
 ありて悔し。衣葛籠。袿不帯。下襲或へ。榻付。縫箔不飾磨。乃  
 茶褐。京纈。絹練。在土紫。縹。纏の蒙衣。宿直物。綿練。貫仁。思  
 細小妻木綿の油筆。女見が好ま。伴。金。飽。甘。晴。夜。裳。皆。あ。も  
 見え。そ。不。修。流。と。と。と。と。惜。む。取。ら。う。ゆ。わ。女。子。が。願。ひ  
 移。り。て。そ。の。下。象の小櫛。不。玳。瑁。の。髪。櫛。さ。不。拔。さ。う。て。投。ん。と。て。い  
 捨難。牙。今。更。不。形。る。又。必。ひ。も。あ。ど。と。と。と。泣。外。の。目。目。も。さ。さ  
 少。て。東。六。の。声。を。う。う。立。栲。幡。が。境。藤。太。が。巻。絹。ゆ。や。燕。の。子。安。貝。で。も。  
 命。不。あ。る。宝。と。さ。し。熱。不。物。を。惜。ま。う。衆。人。は。笑。ま。る。ん。投。捨。多。と。激。して。  
 父。も。移。り。入。舊。里。へ。飾。る。二。色。の。段。射。斗。目。素。袍。烏。帽。子。ゆ。ゆ。と。も。不。

不。落。零。と。と。と。投。り。た。れ。浪。不。採。ま。と。く。裏。あ。つ。龍。田。の。秋。の。韓。紅。  
 水。を。溜。り。と。と。と。く。浪。の。底。を。洗。ま。ひ。私。人。旅。客。こ。ま。張。入。と。今。の。  
 腹。も。道。も。ほ。し。痛。く。く。ゆ。ゆ。も。親。と。子。の。命。を。捨。て。衆。人。を。救。ひ。ゆ。ゆ。  
 武士。あ。れ。い。げ。さ。り。あ。つ。時。正。多。く。ゆ。ゆ。え。ゆ。ゆ。と。異。日。同。音。と。散。動。ゆ。ゆ。  
 小草。の。さ。さ。と。東。六。も。今。の。さ。さ。ひ。絶。この。時。ま。ゆ。ゆ。を。放。さ。を。腰。不。著。と。さ。  
 一。文字。の。陣。羽。織。の。帛。紗。を。解。て。泣。沈。む。小草。が。背。へ。楚。と。負。く。遠。ひ。苗。  
 墨。斗。の。筆。を。抜。出。て。天文。十七。年。九。月。十七。日。風。濤。の。難。ゆ。ゆ。と。遠。江。  
 灘。不。水。死。一。里。ゆ。ゆ。五。十。四。澤。東。六。郎。亨。年。四。十。女。見。小。草。十。六。歳。と。書。面。書。し。  
 親。子。が。必。死。を。極。め。て。も。口。も。い。は。れ。も。あ。れ。腹。を。ぐ。ぐ。ゆ。ゆ。せ。め。て。小。草。を。助。人。と。あ。か  
 親。の。慈。ひ。を。彼。首。を。首。と。ん。あ。つ。て。中。よ。人。と。笑。ま。う。地。を。さ。る。獸。天。  
 不。あ。る。何。も。な。の。子。張。あ。れ。い。げ。さ。らん。口。が。親。子。の。厄。不。あ。り。て。腹。を。果。べ。と。ん



あふ糸ども。えんくろくごく今流せし。女児が嫁入衣裳する。婚縁のや  
 そのど仔細と相摸と隔と六塔をのぼる。いんれもせと底の水層と  
 ろんこんとこのと黄泉の障あり。小舟を流さすもあぶら海底下  
 跳入く。衆人を救ふべし。その由女児を助けし。猜し由といひひて流泉  
 猛き武夫も涙よぬ。弦へ足踏りけて潔く。飛入んとまきろくく  
 小草は吐嗟と携角を慈愛いと深。水底へ沈もみ。犯さるる阿答と  
 と。いへる跡に残らんや。そのも脱とぬのめりせ。つらと先へ洗めて  
 この身いさを犠牲みく。恥羞の如きろく。恙あり相摸へさる。それ  
 まは幸はし。南無阿弥陀仏と唱もあぶ。身を投んとまきろく。東六も  
 忙しく抱れあめて嘆息。親あつくと希あつと。子の道のいひな  
 おん牙の既。校五郎との良人あり。みよの孝ありとも。良人の為を負らば。

婦徳はあつと。いさまで可も。け切くて。既お嫁して。夫お後  
 厚りを忘まて。辛くして危難を脱。恥羞余へ著くとあぶ。牙  
 その陣羽織を。神原親子へ。通せ。然る。君も某が。公操を。御  
 まん。や汲引とま。人ありとも。神原おあ。その。文字を。必しも。  
 管領へ。進じ。の。あ。の。文。研。平。が。一。言。の。後。お。答。へ。と。あ。の。の。り。運。揚。く  
 親子の。為とも。大魚の。腹お。葬。られる。が。こ。も。え。それ。さ。で。あ。り。の。の。の。際。よ。ら  
 父と。姉。が。あ。る。後。さ。も。あ。る。は。し。あ。る。止。み。子。の。い。つ。あ。る。う。ら。ん。と。同。よ。ん。え。ぬ  
 子の。う。さ。も。い。ひ。ぞ。あ。せ。る。親。ら。か。い。子。の。面。敷。を。繕。ぬ。母。の。形。見。の  
 印。籠。胸。の。獲。袋。お。け。て。お。し。願。言。の。只。願。言。の。息。の。内。あ。る。再。会。の。あ。る。の。で  
 け。の。水。の。泡。消。て。の。後。お。垂。乳。母。の。荒。磯。の。月。の。便。り。も。あ。る。あ。ら。ん。あ。ら  
 り。と。本。意。を。く。あ。ら。ん。別。れ。の。あ。ら。ん。父。と。母。と。惜。や。あ。ら。ん。し。や。と。あ。ら。ぬ



事をわくまぐも。おれ口渡り死を争ふ。親子が歎きまもこそと。後者等  
 のびまうと大凡形ありと。人共は袂をぬじり。浩如し潮煙。勿れおれと  
 立撞ひて常闇とかりし。人共驚死怪て。送は伴侶の各死。おれおれ。咫尺の  
 間の思白を別び。海の鳴音百千の霹靂。不異る。船はかたはれ。獲るを  
 不めふも。倍されば。衆皆ぬじり。戦慄と長食。後お時を移して。海神乃  
 怒るせまぐ。この船の反覆んと。今もや。瞬中おあり。船艦をわしして。その  
 船子を。おせよ。後せよ。罵らう。船人木きり。鬼てや。ぐ。小草を抱は。揚目今  
 引おろすと。小舟の中へ。後。おせん。と。うろく。東六怒り。声と。激し。賞期と  
 隨て。極めし。の。派。汝。ホ。か。ゆ。を。借。て。い。そ。女。見。を。殺。さ。さ。返。せ。候。せ。と。叫。び。つ  
 り。ぎ。む。ま。ば。旅。客。ホ。ハ。面。不。速。り。背。より。携。り。て。や。や。く。ふ。引。放。せ。ば。船。人  
 び。ろ。と。抱。さ。る。小。草。を。舩。艦。へ。落。入。し。又。東。六。を。う。れ。抱。て。の。う。若。ま。お。せん。と

とんは。五十四。操。は。す。く。く。哮。り。て。腰。刀。を。閃。し。近。う。の。派。破。ら。ん。と。さ。る。風  
 又。猛。ふ。吹。暴。れ。て。船。は。暴。浪。お。打。揚。ら。れ。揃。お。ろ。さ。れ。て。須。臾。も。身。を。正。し。立  
 こ。つ。る。へ。ど。電。向。た。り。して。蓬。庫。お。敵。徹。し。人。と。倒。し。つ。れ。由。疲。勞。で。百。万。の  
 敵。軍。を。屑。と。せ。ぎ。う。ろ。う。る。勇。士。お。れ。れ。も。只。一。人。お。傷。る。と。さ。る。せ。ど。又。お  
 杖。お。膝。立。る。舟。と。且。く。息。を。吐。お。ろ。う。小。草。を。穿。つ。る。小。舟。の。纜。忽。地  
 弗。と。断。離。る。音。と。苦。と。叫。び。女。見。が。声。お。胸。お。碎。れ。腸。を。断。る。親。は。蹠。踏  
 ち。て。や。は。俟。小。草。ひ。ろ。う。ち。お。れ。を。黄。泉。の。旅。の。御。導。せ。ん。その。船。か。く。せ。と  
 叫。び。ろ。ひ。て。立。ん。と。て。六。輾。轉。頭。髪。お。断。離。し。髪。を。乱。れ。物。狂。り。て。長。良。権。が  
 板。子。を。抱。き。身。を。跳。り。浪。を。用。ひ。て。飛。入。る。憐。む。下。悲。む。下。勇。敢。を。雙。の  
 武。夫。も。お。の。惑。ひ。ハ。解。と。つ。る。へ。ど。曙。明。が。色。お。度。て。一。八。が。死。心。を。惹。後。が  
 七。回。の。亡。日。う。ろ。放。り。て。妻。を。去。り。稚。死。止。死。子。を。追。失。ひ。今。十。七。回。忌。の。終



月亡つらき日ひ女見むすめ小草くさこを失しひと。牙とも又水みづ不あ脚あしして死しと因果いんぐわ觀面くわんめん水みづより紀おとて  
 水みづ不あ終はりし鷄やうけい鷄や。を好このめば身みを喪はふ。さうの境くわんを戒いの境くわんのけりておとる  
 べ。水みづ主ぬし楫こし取とりての目めみ東あづま六むが投なれと波なみの上うへ人ひとありと。引ひ  
 ぐ。如ごとくええととと。さる程ほども風かぜ風かぜ波なみをありて衆しゆ皆みなややくのれぬを  
 小草くさこが船ふね入いり碎くずや一ひとけん。その跡あとをさふんさうは。五い五ご塚づかが後あと者しやうへ只ただ假かり  
 初はつの催もよおするんべい。かゆり主ぬし代しろアと死しんとあふりのもるく今いま亦また殉じゆん  
 没なむのはし辛からく命いのちを助たすけしをせめてりのりみあひて瀬せ戸との川がは上うへ  
 船ふねを敗たせ。あうり故ゆゑにゆりふけと主ぬしの枉まが死しをぬれくさう。家いへの  
 ちけと安やす濃のうの津つみ。さうみあつりの稀まれなりたり。

糸櫻春蝶奇縁卷之三終



